

裂莢しにくく機械収穫適性の高い 「サチユタカA1号」が奨励品種に

【背景・目的・成果】「サチユタカ」は、裂莢しやすく機械収穫では収穫ロスが大きくなるという欠点があり、現場からも改善が求められていました。このたび、農研機構・作物研究所(現:次世代作物開発研究センター)において、成熟期などの特性が「サチユタカ」とほぼ同じで難裂莢性を導入した新品種「サチユタカA1号」が育成され、本県での試験でも優位性が確認され奨励品種に採用しました。



裂莢率の比較(作物研)

品種名	自然裂莢(H21~22)		加熱試験(H20~22)	
	条件	裂莢率(%)	条件	加熱後の裂莢率(%)
サチユタカ A1号	畑 または 水田圃場	0.3	60℃ 3時間 加熱	4.6
サチユタカ		12.5		73.1

「サチユタカA1号」の主な特性

播種時期	品種	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏	主茎長 (cm)	最下着莢高 (cm)	収量 (kg/10a)	百粒重 (g)	検査等級	タンパク含量 (%)
標準播	サチユタカA1号	8.05	10.29	無	60	15.8	377	35.5	3	45.2
	サチユタカ	8.04	10.28	無	61	16.1	361	35.2	3	46.5
晩播	サチユタカA1号	8.23	11.13	微	53	14.7	306	35.8	2	46.2
	サチユタカ	8.23	11.13	微	52	14.2	297	34.9	2	47.3

栽培特性は「サチユタカ」とほぼ同じ!

注1)試験年次は標準播は2009~2015年。晩播は2011~2015年。播種期は標準播:6/19~25、晩播:7/21~8/4。
 栽植密度は標準播:条間75cm、株間15cm(8.9株/m²)、2本仕立て。晩播:条間60cm、株間10cm(16.7株/m²)、2本仕立て。
 注2)倒伏は、無、微、少、中、多、甚の6段階評価。
 注3)収量は6.7mmの篩で選別後の重量。収量及び百粒重は15%水分換算値。
 注4)等級は近畿農政局兵庫支部(旧兵庫農政事務所)による。
 注5)タンパク含量は2009、2010年は長野県野菜花き試験場、2011~15年は近畿中国四国農業研究センターでの分析結果。

【技術の活用】「サチユタカ」と同じ栽培管理が可能と考えられるため、「サチユタカ」生産地では「サチユタカA1号」に容易に置き換えることができ、増収効果が期待できる。